

令和8(2026)年度 病害虫発生予報 第3号

令和8(2026)年6月19日
栃木県農業総合研究センター
環境技術指導部

予想期間：6月中旬～7月中旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

1 水稲 いもち病

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い(+)、降水量は平年並か多い(±)見込み。
 - ・BLASTAM(6月中旬)では、一部の地点で感染好適条件が確認されている(+)
- (3) 対策
 - ・葉いもちの初発時期(6月中下旬)以降、ほ場をよく見回り、早期発見に努める。
 - ・発生が見られる場合は、ダブルカットフロアブル(RACコードF:16.1、24)等、予防・治療効果のある薬剤を散布する。
- (4) 備考
 - ・[BLASTAMいもち病発生時期予測システム](#)の情報、[薬剤感受性検定結果を当センターホームページ\(HP\)に掲載中](#)。

2 水稲 縞葉枯病(ヒメトビウンカ媒介)

- (1) 発生予想 発生量：やや少ない
- (2) 根拠
 - ・今年5月の大麦でのヒメトビウンカの発生量はやや少ない(ほ場率：平年並、密度：やや少ない)(-)。
 - ・昨年11月のウンカ類の越冬前幼虫の保毒虫率は平年並(±)。
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い(±)、降水量は平年並か多い(±)見込み。
- (3) 対策
 - ・昨年発生が多かった地域では、本田期防除を実施する。
- (4) 備考
 - ・[令和7\(2025\)年度植物防疫ニュースNo.14](#)を当センターHPに掲載中。

3 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は多い(+)
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い(+)、降水量は平年並か多い(+見込み)。
- (3) 対策
 - ・本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗段階での防除を徹底する。
 - ・株が軟弱徒長すると発病しやすいため、適正な温度管理やかん水管理を行う。
 - ・予防を主体とし、発病前からクロスアウトフロアブル(RACコードF:50)等を葉裏まで十分に薬剤が付着するように散布する。
 - ・薬剤感受性の低下を防ぐため、RACコードの異なる薬剤をローテーション散布する。

4 いちご（親株・育苗）ハダニ

- (1) 発生予想 発生量：平年並
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は平年並（±）。
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い（±）見込み。
- (3) 対策
 - ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。
 - ・本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗段階での防除を徹底する。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布するとともに、抵抗性が発達しにくい気門封鎖剤や天敵製剤を活用する。
 - ・天敵導入時にハダニ類が多いと失敗しやすいため、天敵導入前に気門封鎖剤や天敵に影響の小さい薬剤を散布し、ハダニ類の密度を下げておく。
- (4) 備考
 - ・[ハダニ類薬剤感受性検定結果を当センターHP に掲載中](#)。

5 トマト 黄化葉巻病（TYLCV）、黄化病（ToCV）（コナジラミ類媒介）

- (1) 発生予想 発生量：やや多い
- (2) 根拠
 - ・現在のコナジラミ類の発生量は平年並（ほ場率：平年並、株率：平年並）（±）。
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い（±）見込み。
- (3) 対策
 - ・コナジラミ類の侵入を防ぐため、ハウスの開口部（出入り口、側窓、天窗）に0.4mm目合以下のネットを張り、特に出入り口は二重にする。
 - ・黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の早期発見に努める。
 - ・黄化葉巻病の耐病性品種であっても、本病に感染すると伝染源となるため、感受性品種と同様に適切な防除を行う。
 - ・発病株は見つけ次第抜き取り、土中に埋設するか、ポリ袋などで密封し枯死させてから処分する。
 - ・化学農薬に対する感受性低下が起こりやすいため、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- (4) 備考
 - ・[防除のポイント No. 22](#)、[タバココナジラミ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHP に掲載中。

6 なし ナシヒメシンクイ

- (1) 発生予想 発生量：多い 発生時期：早い
- (2) 根拠
 - ・フェロモントラップへの誘殺数は多い（+）。
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い（±）、降水量は平年並か多い（±）見込み。
- (3) 対策
 - ・被害果は見つけしだい取り除き適切に処分する。
 - ・交信攪乱用フェロモン剤を設置する。
 - ・卵及び食入前のふ化幼虫を対象に薬剤散布を行うと効果が高い。
 - ・[フェロモントラップ調査結果](#)の誘殺ピークを参考に、薬剤散布時期を検討する。第二世代幼虫の防除適期は第一世代成虫の誘殺ピークの7～9日後。

7 りんご 斑点落葉病

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・現在の発生量は多い（+）。
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い（+）、降水量は平年並か多い（+）見込み。
- (3) 対策
 - ・定期的に予防散布を行い、耐性菌発生防止のため RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
 - ・発生を確認したら、ナリア WDG(F:11, F:7)等を散布する。

8 果樹 果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ）

- (1) 発生予想 発生量：多い
- (2) 根拠
 - ・フェロモントラップへの誘殺数は多い（+）。
 - ・向こう1か月の気温は平年並か低い（±）、降水量は平年並か多い（±）見込み。
- (3) 対策
 - ・多目的防災網の設置園では、速やかに展張し、園全体を隙間無く被覆する（網の目合いは4mm以下が望ましい）。
 - ・果樹カメムシ類の飛来状況は地域やほ場によって異なるため、園地を定期的に巡回し、飛来状況の確認を徹底する。特に、山林に隣接する園地や過去に被害が多発した園地では、より注意深い観察が必要である。
- (4) 備考
 - ・気温及び湿度の高い日は夜間の飛来量が多い傾向があるので注意する。
 - ・[植物防疫ニュース No. 15](#)、[令和8（2026）年度病害虫発生予察注意報第2号](#)、[チャバネアオカメムシの薬剤感受性検定結果](#)、[フェロモントラップ調査結果](#)を当センターHPに掲載中。

9 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
水稲	ニカメイガ	多	多	なす	アブラムシ類	多	多
いちご	炭疽病	少	平年並	なし	黒星病	やや多	やや多
トマト	葉かび病	少	やや少		アブラムシ類	少	やや少
	うどんこ病	平年並	やや多	りんご	褐斑病	多	多
きゅうり	うどんこ病	やや少	平年並	きく	ハダニ類	平年並	平年並

○ 今後の病害虫対策

(1) 栽培終了時の防除対策

- ・ トマト、きゅうり、いちご等の施設栽培では、栽培終了時にハウスの密閉蒸し込み（栃木県農作物等病害虫雑草防除指針[技術情報](#)）を行うなど、施設内の害虫を野外へ「出さない」対策を徹底しましょう。特に、コナジラミ類はトマト黄化葉巻病（TYLCV：タバココナジラミ）やトマト黄化病（ToCV：タバココナジラミ、オンシツコナジラミ）を媒介し、ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病（MYSV）を媒介するため、注意が必要です。
- ・ また、施設栽培作物の栽培終了後には、次作に向けて土壌消毒を実施しましょう。植物残さ内の病原菌は消毒されにくいため、ほ場から植物残さを持ち出す等、適切に処分しましょう。また、効果的な土壌消毒の実施のためには、十分な耕起、碎土の実施や、適度な土壌水分管理が重要です。詳細は、栃木県農作物等病害虫雑草防除指針の[技術情報](#)を御確認ください。
- ・ いちごは親株と本ぼの管理作業が重なる時期です。本ぼで薬剤抵抗性を発達させたハダニ類を親株に持ち込まないために、本ぼ作業後に親株の管理作業を行わないようにしましょう。

(2) 水稲 イネカメムシ

- ・ 越冬量は県南部では昨年よりやや少なかった一方、県中部では多かったため、今年の水稲での被害が懸念されます。
- ・ 越冬確認地域：出穂期と7～10日後の2回防除を実施しましょう。
- ・ 越冬未確認地域：常発地の県南部では引き続き適期防除を実施し、それ以外の地域では、ほ場巡回し、早期発見・適期防除に努めましょう。
- ・ [植物防疫ニュース No. 16](#)、[栃木県の水稲に発生したイネカメムシに対する薬剤の殺虫効果](#)、[続報](#)を当センターHPに掲載中です。

○ 農薬の安全使用等

(1) 薬剤抵抗性発達の抑制

- ・ 薬剤で防除する際には、RAC コードの異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

(2) 有用生物への影響に留意

- ・ 花粉媒介昆虫（ミツバチ、マルハナバチ）や天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。

(3) 農薬適正使用の徹底

- ・ 6～8月は「[農薬危害防止運動](#)」の実施期間です。
- ・ 農薬は適正に保管・管理しましょう。
- ・ 農薬を使用する際は、容器のラベルに記載された内容を遵守し、農薬による事故等の発生を防ぎましょう。
- ・ 薬剤散布の後には必ず作業内容を記録し、防除履歴を作成しましょう。

(4) 春の農作業安全確認運動

- ・ 4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。
- ・ 農業機械の転落・転倒対策、熱中症予防対策、安全意識の向上のための対策等を徹底し、農作業安全に努めましょう。

- **1か月気象予報**（予報期間：6月20日～7月19日 6月18日 気象庁 発表）
 - ・期間のはじめは冷涼な空気が流れ込みやすく、気温がかなり低くなる見込みです。向こう1か月の気温は平年並か低いでしょう。
 - ・期間のはじめを中心に低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）

項 目	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	40	40	20
降 水 量	20	40	40
日照時間	40	30	30

○ **お問い合わせ等**

- ・詳細は農業総合研究センター環境技術指導部防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せください。
- ・病虫害情報発表のお知らせは、[X「栃木県農政部\(@tochigi_nousei\)」](https://twitter.com/tochigi_nousei)、[農業総合研究センターHP \(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html\)](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html)でも御確認いただけます。
- ・[カメムシ防除作戦HP \(https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html\)](https://www.pref.tochigi.lg.jp/g05/kamemushi.html)も御確認ください。



X「栃木県農政部」



農業総合研究 HP



カメムシ防除作戦 HP